



医学生のたまご

12月号

年末年始は何して過ごそうかな

結局、ドラマの再放送をひたすら見ちゃう。でも一番楽しいのは高校サッカーですよね。

さて、高校生・受験生のみなさん、こんにちは！12月になり、いよいよ冬本番ですね。共通テストまで一ヶ月と少し。受験生はもうひと踏ん張り走り切りましょう！インフルエンザが全国的に流行しています。手洗い、うがい、マスクを徹底して体調を万全にして臨んでくださいね。

ボランティア こんな一面も

11月15日（土）、千葉健生病院とJR幕張駅とで開催した「まくはり健康フェスティバル」。3時間という短い時間のなか、200名を超える来場がありました。

HPでは、学生と高校生にお手伝いしてもらったボランティアの様子を載せています。この通信では、それ以外のブースを紹介します。医師だけでなく、医療分野を進路に考えている方も参考にしてみてください。ぜひ次回は一緒に取り組みましょう！



医療相談ブースには、医師・看護師・保健師・薬剤師・栄養士がお話を伺いました。「病院に行くほどではないかな」と受診を控えると、手遅れになるなんてことも世の中にはあります。だからこそ気軽に、医療者に相談できる機会が地域にあると嬉しいですよね。



毎回人気の骨密度測定。臨床検査技師と放射線技師が検査します。骨の状態は気にはなっても、健診項目に含まれていないことが多いです。そういう需要に応えるのも健康まつりの目的です。技師の優しい声掛けや説明を、ぜひ見に来てください！



キーワードを深めよう 「社会的処方④」

病気を自己責任にせず、その人の背景に目を向けましょうと前回お話ししました。今回は、その背景とは何なのかについて触れてみます。

前回の最後に登場したSDH。これはSocial Determinants of Health（健康の社会的決定要因）のことです。医学生の卒業時の到達目標を示す「医学教育モデル・コア・カリキュラム」でも、「社会構造と健康・疾病との関係（健康の社会的決定要因）を概説できる」という学修目標が平成28年の改訂版から設定されています。なので、みなさんの「病気を治したい」という想いを実現するには、病気や身体の理解だけでなく、社会構造との関係性にも意識を向ける必要があるということです。これがよくいう「その人全体を診る」「病気の背景に目を向ける」など言われるようになった理由です。

WHOはSDHについて、右記の10項目に分類しています。問診や多職種カンファレンスでも民医連はこの視点を大切にしています。

次回はこれらの項目について、事例を使って解説します。みなさんも検索して、SDHを調べてみてね。ではまた。

WHOの定める10項目				
社会格差	ストレス	幼少期	社会的排除	労働
失業	社会的支援	薬物依存	食品	交通

出典：WHO健康都市研究協力センターほか「健康の社会的決定要因 確かな事実の探求」（第二版）

【お問い合わせ】

千葉県民主医療機関連合会（千葉民医連）

TEL : 043-224-7497